

国語

第3学年

育成を目指す資質・能力 【知識】【情報整理・分析力】【協働的態度】

単元名

小説を深く読もう「故郷」 ～50年読み継がれてきた謎を解き明かそう～

【単元の概要】

生徒は、小説「故郷」が50年前から教科書に掲載されていることに気付いたことをきっかけに、その魅力を探ることを課題として設定します。約100年前の中国を舞台に経年と置かれている立場によって起こる人間関係の変化をテーマとした作品の魅力を探ろうと、既習を活用しながら読みを深めていきます。

学習指導要領における領域・内容

C読むこと アイ

他教科との関連

社会

◆単元の目標

長年読み継がれてきた文学作品について、場面や登場人物の設定や変容、表現の工夫などを捉えたり、様々な年代の人の感想や作品の背景に触れたりすることを通して、作品全体への理解を深める。

◆単元の展開（全7時間）

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>課題の設定（1）</p> <p>「故郷」をはじめとするいくつかの作品が、複数の出版社の教科書に長年掲載されていることを知り、通読する。</p>	<p>○教科書は、これまでいろいろと内容が変わってきているんだな。</p> <p>○途中で掲載がなくなったり、新しく採用されたりする教材もあるね。</p> <p>○今までに読んだ「少年の日の思い出」や「走れメロス」、今日から読む「故郷」は、もう50年以上も教科書に載り続けているのか。</p> <p>掲載が始まった年度から現在に至るまでの状況などを知り、読み継がれている理由、作品の価値についての興味・関心が高まる。</p>	<p>■単元のゴールに書かせる批評文のイメージがもちやすくなるように、新聞の書評欄や作品の批評文が掲載された記事を機会があるごとに紹介し、読ませておく。</p> <p>■掲載が始まった年度の教科書の実物を示したり、現在に至るまでの状況を整理した図表を提示したりする。</p>
<p>「故郷」が50年読み継がれてきた謎を解き明かそう！</p>		
<p>「故郷」が50年読み継がれてきた理由について推測し、その理由を「謎」として解き明かすための方法について話し合う。</p> <p>課題の解決に向けて話し合ったことを基に学習計画を考える。</p>	<p>○中国が舞台で100年以上前の話みたいだし、「走れメロス」みたいに爽快な感じもない。ただ、登場人物の変わりようには驚いたね。そこに作品の魅力があるのかな。</p> <p>○特徴的な比喩や言い回しや、表現技法が使われていたよ。そこに魅力があるのかな。</p> <p>○最初と最後に同じような情景描写が出てきたけれど、何か作者の意図があるのかな。そこに読み継がれてきた謎を解き明かすカギがあるかも。</p> <p>○正直、楽しい話ではないなと思ったよ。これまで読んできた中学生はどう思ったんだろう。家族や先輩にも聞いてみるといいかもしれないね。</p> <p>これまでの文学的な文章の学習で学んだ作品を読み深める視点をもって話し合っている。</p> <p>○「走れメロス」の学習の時みたいに、登場人物の変化を捉えると、作品がより理解できるかも。人物関係図を書いてみようよ。</p> <p>○「故郷」の特徴的な表現の工夫について、これまでの学習を生かして考えてみようよ。</p> <p>○「走れメロス」では情景描写に心情が表現されていたから、「故郷」にもあるのかも。情景描写に着目することで心情の変化がより捉えられ、なぜ読み継がれてきたかが分かってくるかもしれないね。</p> <p>○読み継がれてきた謎が解けたら、後輩たちに読んでもらえるように、批評文の形でまとめよう。</p>	<p>■印象に残っていることについて想起させ、その理由をこれまでの学習を振り返りながら考えさせたり、既習の整理をさせたりすることによって、登場人物の設定や表現の工夫に気付くようにする。</p> <p>■「故郷」を学んだ様々な世代に作品を読み返してもらい、改めて今、作品が読み継がれてきている理由についてどのように考えるかを聞き取れることを家庭学習として設定する。</p> <p>■人物関係図とは、登場人物の相関関係とともに、それらの人物の変化を示す図のことである。</p> <p>■話し合った解決策を基に、読みの視点を設定するとともに、学習のまとめの形態として批評文を書いて、他学年に提示することを提案する。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
	<p>「故郷」が読み継がれてきた理由を解き明かすという目的意識と明確な視点をもって作品を読もうとしている。</p>	
<p>情報の収集、整理・分析（４）</p>		
<p>「故郷」が読み継がれてきた謎を解き明かすという目的意識を持って作品を読む。個人で人間関係を捉えるという視点から、作品を読み、人物関係図を作成する。</p>	<p>○「私」とルントウの関係を、人物関係図にすると、時間の経過によって立場が変わっていることがよくわかるね。二人は、子供の時は「友達」だったけれど大人になって完全に「主従関係」になっているよ。</p> <p>○「私」は今でも「友達」でいたかったけれどそうはいかないという現実の厳しさを、ルントウの「……旦那様！」の一言で見事に表しているよね。</p> <p>○「私」の甥のホンルと、ルントウの子供のシュイシヨンの関係は、「私」とルントウの関係に似ているよね。</p> <p>○似ているけれど、「私」は、ホンルとシュイシヨンが自分達と同じような状況になるのは望んでいないように感じたよ。</p>	<p>■人物関係図づくりは、個人で取り組ませた後、グループで詳細な人物関係図づくりに取り組ませる。活動の中で、読み取ったことや分かりにくかったこと、話し合いの中で気付いたことを本文中の表現を根拠にしながらか話し合いをさせ、図に書き加えることにより、読みを深めさせる。</p>
	<p>人物関係の描き方という視点から「故郷」が読み継がれてきた理由を解き明かすという目的意識をもって作品を読んでいる。</p>	
<p>「故郷」が描かれた社会的背景に着目し、登場人物の関係の変化に対する理解を深める。</p>	<p>○人間関係の変化を読んでいる時、よく理解できなかったのが、ルントウの境遇が「彼をいじめて、でくのぼろみたいな人間にしまったのだ。」という部分なんだけど、これってどうということかな。</p> <p>○作品の舞台は中国だよ。先生は、作品が書かれた中国の当時の社会を反映していると言っていたけど、その頃は、ちょうど中国の近代化が進められた時代だよ。そのこととの関連をもっと知りたいね。</p>	<p>■ルントウの変化の要因が描かれた叙述に着目させ、作品を取り巻く当時の歴史的背景に対する関心をもたせる。</p>
	<p>作品が書かれた時代背景という視点から作品を捉えようとしている。</p>	<p>【社会】中国の近代化についての学習との関連 担当教員と連携し、「故郷」が当時の中国社会に残存した封建的な身分慣習を反映していたこと、魯迅が民衆の意識改革を目指して執筆活動を行っていたことを捉えさせる。</p>
	<p>○「私」とルントウの関係は当時の中国の社会の縮図とも言えるんだね。</p> <p>○当時の歴史的背景がこの作品には色濃く反映されているんだね。魯迅は作品中の人間関係の変化を通して、その不合理を伝えようとしていたのか。そのことを踏まえて考えるとホンルとシュイシヨンの未来を語る場面も深い意味があるように思えてきたよ。</p> <p>○時代背景を反映した人間関係の変化を描いている点か、日本人の共感を呼び、長く読み継がれてきたのかもかもしれないね。</p>	
<p>作者の意図が感じられる表現の工夫や効果についての視点から、作品が語り継がれてきた理由を考える。</p>	<p>作品中の人間関係の変化と当時の時代背景や作者の思いを関連付けて作品を読んでいる。</p> <p>○冒頭の故郷のさびしい描写を重ねる工夫などは「私」の「寂寥感」がうまく表現されているよね。こういった情景描写の巧みさが作品の魅力の一つではないかな。</p> <p>○「紺碧の空」の「金色の丸い月」と「浜辺の砂地」の描写は2度出てくることで強く印象に残ったよ。でも、微妙に描き方が違う。作者の意図は何だろう。</p> <p>○作品の最後の「私」の視線は、「砂地」から「金色の丸い月」へと動いている。厳しい現実の中でも「希望」を失わず、歩んでいこうとする「私」の強い意志を表しているように感じたよ。この表現力こそ、作品が長く読み継がれてきた理由じゃないかな。</p> <p>既習を活用しながら、本文中の表現を根拠に読みを深めている。</p>	<p>■生徒に作者の意図が感じられる表現の工夫や効果について意見を交流させる中で、冒頭と終末に描かれる「紺碧の空」の「金色の丸い月」と「浜辺の砂地」の描写に着目させ、その違いに気付かせることで、そこに込められた作者の意図を話し合わせる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>作品の印象やテーマ性について考えたことを交流するとともに、他の年代への聞き取りを基に、作品が語り継がれてきた理由を考える。</p>	<p>○最初は、なんか寂しい物語としか思っていなかったけど、社会を反映した人間関係の変化について考えさせられるようになったよ。</p> <p>○自分達もこんなふうに変わっていくのかな。</p> <p>○私の母は、今読み返してみると、人間関係の変化に共感できると言っていたわ。自分に重ねて感じるものがあったって。</p> <p>○祖母は、この作品には、それぞれ進路を決め、旅立っていくあなたたちに向けたメッセージが込められているのよって言っていたわ。</p> <p>○自分達を感じたことや様々な世代の意見を基に考えると、たとえ時代に翻弄されたとしても、人は「希望」をもち続けなければならないというメッセージ性こそ、作品が語り継がれてきた理由と言えるかもしれないね。</p> <p>人間関係や表現の工夫の視点からの読みを生かし、作品を深く捉えている。</p>	<p>■家庭学習で聞き取りを行った内容を整理し、各世代がどのように作品を捉えているかを分析させる。</p>
<p>まとめ・創造・表現（1）</p>		
<p>「故郷」が語り継がれてきた理由について自分の考えをまとめた批評文を書く。</p>	<p>○学習してきた視点「人間関係」、「時代背景」「表現の工夫」、「テーマ」のうち、自分がもっとも読み継がれてきた理由だと思うのは何かもう一度考えて選ぼう。</p> <p>○これまで自分一人で考えたり、グループで意見を出し合ったりしながら考えてきたから、自分の考えに自信をもてるよ。</p> <p>○友達は、どんな視点でこの作品の魅力をつめているのか知りたいな。</p> <p>これまでの学習で読みを深めたことを基に、本文中の表現を根拠にし、自分の考えを書いている。</p>	<p>■自分の考えの根拠を付箋に書かせて整理させた後グループで説明させ、本文中の表現を引用して書くようにさせる。</p> <p>■グループでの意見の交流を通してわかったことや気付いたこと、自分の考えの根拠になると判断したものも付け加えて書くようにさせる。</p> <p>■批評文の書き方については既習事項を確認させる。</p>
<p>振り返り（1）</p>		
<p>互いの批評文を交流する。</p>	<p>○自分は表現の魅力に着目してその視点を中心に批評文を書いたけど、他の人の人間関係の視点を中心に書いた批評文も作品の魅力を伝えているな。多様な視点から評価ができることも「故郷」の魅力かもしれないな。</p> <p>○「故郷」の作品がなぜ語り継がれてきたかについて考えてきたけど、これまで学んできた様々な視点の読み方を活用することでより深く考えることができた気がするね。</p> <p>○魯迅の他の作品には、また別の魅力もありそうだね。読んでみたくなったな。</p> <p>学習材の魅力に気付くだけでなく、ほかの作品まで読みを広げようとしている。</p>	<p>■自分の意見と異なる部分や、もっと知りたい部分に付箋紙を貼りながら読ませ、意見を交流させる。</p> <p>■魯迅のその他の作品についてあらすじを紹介し、興味をもたせ、読みを広げさせる。</p>

【児童生徒の変容】

「故郷」という作品に対し、「長編で内容が捉えづらく難しい」というイメージをもっていた生徒が、作品が50年語り継がれてきた理由を探るといった課題意識をもち、これまでの国語科における既習事項である「登場人物の変化」や「表現の工夫」などの視点に加え、「時代背景」や「異年代の捉え」という視点から作品を読み、友達との協働的な活動を通して読み取った内容を整理・分析していくことで、作品への理解を深めていくことができた。また、こういった多角的な視点からの分析をグループで協働的に行い、「作品の魅力」を一人一人が批評文として書き交流することは、本校が育成を目指す情報整理・分析力、協働的態度といった資質・能力を高めることにつながったと捉えている。